



わかやま

No.6 5

和歌山県精神保健福祉センター

2015年11月

特定医療法人旭会和歌浦病院 生駒 芳久

「同窓会」

わたしは66歳です。先般、医大の同期がアバロームに集まる機会がありました。幹事のN先生から乾杯の音頭をとるようにとのことでしたので、喜んで「かんぱーい！」と役目を果たしました。

わたしにおはちがまわってきた理由は簡単です。なにしろ、現役同窓生とはひとまわりちがいのクラス最年長だからです。

和医大を卒業したのが36歳の時でしたので、もう30年たちました。それでも今年、公立病院を定年退職した後、新しい職場で働き始めています。

同窓会出席者は、ほとんどが50歳半ばの働き盛りの人たちですが、外科をやっている人の中には、「メスを置く時期のことを考えている」という声も聞かれました。

わたしは精神科を専攻しているおかげで、自分ではもうしばらくは働けると思っています。

もちろん寄る年波を感じないわけではありません。記憶力は若い時と同じにはいきませんし、耳だって少しずつ遠くなってきています。目は全く見えません。

わたしが自分の目がいずれは見えなくなることを知ったのは、19歳の時でした。工学部電気科というところで勉強を始めたばかりの時でした。すっかりショックを受け、半年ばかり昼夜逆転のひきこもり生活を送りました。おかげで1年留年しました。今から思えばうつ状態だったと思います。

卒業後は、電気会社や市役所に勤めましたが、視力障害が壁になって絶えず行き詰っていました。

そんなわたしにも転機が訪れました。28歳の時でした。

盲学校専攻科に入学し、鍼灸按摩を学び始めました。そこでは同級生や上級生は、視覚障害の先輩であり、なによりもわたしに障害者の「生きるコツ」を教えてくれる存在でした。わたしたちのクラスは4人。全盲が2人、弱視が2人でした。わたしは弱視で、全盲の同級生が移動するときのサポートができました。30歳の時、和医大に合格したので、盲学校は2年生の3月に中退しました。

あれから40年近く経ちますが、この時の同窓生4人は、今でも年に何回か顔を合わせます。和医大の同窓会とは一味違った思い出深いものがあります。

わたしは60歳で完全に失明しましたが、その2年ほど前から読み書きや移動のために専属のサポーターに付いていただき、おかげで仕事を続けることができました。そして今、新しい職場の配慮のおかげで「医療秘書」に支えられて自分なりの精神科臨床ができています。本当にありがたいことです。



もくじ

- P1 同窓会
- P2 シリーズセンター長だより／開催報告
- P3 わかやまこころのフェスタ2015／表彰式／グループ活動紹介／講演会
- P4 精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会／全国障害者スポーツ大会
- P5 和歌山メンタルヘルス／家族教室・研修会開催案内
- P6 は一とふるネットワーク／厚生労働大臣表彰／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

・(073)435-5194 FAX(073)435-5193



シリーズ センター長たより②④

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野 善郎

セカンドチャンス

さまざまな困難や不利を抱えた若者たちの支援で「セカンドチャンス」をつくるのが大きなテーマになっています。うまくいかないことや失敗から立ち直って再出発するために、セカンド、つまり第二のチャンスはとてもたいせつです。とくに子どもは試行錯誤から学ぶものなので、やり直しは成長のための重要な要素といえます。しかし、極度の貧困や過酷な生育の中では、当たり前前のチャンスさえ与えられることなく、大人として社会に出る足がかりを持ってない若者たちが存在しています。まずはセカンドチャンスの前提となるファーストチャンスから始めなければならない現実があることにも、私たちは目を向けなければなりません。

英語のセカンド (second) という単語は「第二の」という形容詞以外に「秒」という名詞としても使われます。秒は分よりも短いので、とても短い時間という意味にもなります。私たちにとって時間はかけがえのないもので、今の瞬間を大切に生きなければなりません。成長途上の若者にとってはさらに重要です。ニューヨークで若者を支援しているNext Generation Centerの外壁に描かれた巨大なアートには“Live every second of life, for there is no second life to live” (人生はかけがえがないのだから、今を大切に生きよう) ということが添えられています。ふたつの意味のセカンドが重なることで、とても前向きなメッセージになっています。セカンドチャンスがすばらしいセカンドをもたらすものであればと思います。



開催報告

【思春期精神保健セミナー】

H27.7.23 (木) 和歌山ビッグ愛にてNPO法人さいたまユースサポートネット代表青砥恭先生に「若者たちへの移行支援と高校中退」というテーマで講演をしていただきました。格差や貧困などのために若者が社会から排除されないように居場所とネットワークづくりの実践からお話されました。講演会には相談支援職の方、教育職の方など47名の参加がありました。

【精神保健福祉従事者SST研修会】

H27.8.27 (木) 和歌山ビッグ愛にて同朋大学社会福祉学部社会福祉学科准教授吉田みゆき先生に「面接に活かせるSST」—ひとりSSTを中心に—というテーマで講演と実技指導をしていただきました。昨年は同じテーマで研修会を開催したところ、公開から1週間で定員となり締め切らせていただいたので第二弾を開催させていただきました。34名の参加があり、分かりやすく直ぐに役立つなどの意見が多く寄せられ大好評でした。



わかやまこころのフェスタ 2015

11月14日(土)和歌山ビッグホールでこころのフェスタを開催しました。あいにくの雨でしたが、今年も大勢の来場者でにぎわいました。センターのブースでは「こころの絵」の入賞作品の展示、依存症についての啓発などを行いました。

平成27年度和歌山県精神保健福祉協会長表彰

永年、精神保健福祉の推進に貢献された方、また精神障害者の社会復帰や自立支援に功績があった方々が協会長表彰を受けました。



永年勤続表彰

宮本 哲弥 国保野上厚生総合病院
小林 千尋 県立こころの医療センター

特別功労表彰

西村 幸喜 岩崎病院
宮村 輝子 精神保健福祉関係事業ボランティア
長尾 起江子 精神保健福祉関係事業ボランティア
角前 修二 みなべメンタルクリニック
山崎 文三 和歌山県精神障害者団体連合会
村垣 雅代 むらがき心療内科クリニック
井谷 隆典 岩崎病院
山本 典秀 こころの郷クリニック
米田 香恵子 田村病院
藤内 真一 藤内メンタルクリニック

「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」入賞者表彰

思わず笑みがこぼれるような絵を見て、あらためてこころの健康について考える機会にさせていただきたいと県民の皆さんから募集しました。



最優秀賞
優秀賞
入選

西浦 ひなた (笠田小学校)
彌園 哲志 (絵画教室ほっとチョコレート)
土山 美都季 (吹上小学校)
一ノ瀬 芽衣 (津木小学校)
深瀬 陽己 (高雄中学校)
道浦 日陽 (上富田中学校)
川井 ひより (中辺路中学校)
藤井 千園 (耐久高等学校)



♪グループ活動紹介♪

今年地域活動支援センター櫻に通所するメンバーで結成されたジャンベ演奏のグループ「アボロッサム」が思わず踊り出してしまうような楽しい演奏を披露してくれました。ジャンベは、西アフリカの伝統的な太鼓で、奥深いリズムを楽しむことができます。リズム療法の研究をきっかけに、2010年からクラブ活動としてスタート。行事やイベントでの演奏、病院や施設への慰問などの活動をしています。



講演会

テーマ「依存症とは何か」
講師：日本ダルク 代表 近藤 恒夫 氏

薬物やアルコールなど、人はどうして囚われていくのか。回復することはできるのか。元覚せい剤依存者であった氏が自身の依存症と向き合いながら、薬物依存者の社会復帰に30年に渡って尽力してきた体験を、朴訥とした語り口で、時にユーモアを交えながら、話されました。



第12回精神障害者ソフトバレーボール 和歌山県大会



～ つなげ・ひろがれ・ボールとともに！ ～

11月16日 和歌山ビッグホエールで、参加6チームの選手、役員、協力団体、一般ボランティアが集い、今年も熱戦を繰り広げました。そして優勝は10年振りのGO!!GO!!さくらが念願の勝利をおさめました。

…参加チームと成績…

- 👑 **優勝** GO!!GO!!さくら(地域活動支援センター櫻)
- ☆ **準優勝** ひだかファイターズ(ワークステーションひだか)
- ☆ **3位** ブラックハーツ(県立こころの医療センター)
- ☆ **4位** DREAM NOAPS(国保野上厚生総合病院)

…その他の参加チーム…

- やおきの風(社会福祉法人 やおき福祉会)
- ちかつ(御坊・日高地域生活支援センター)



和歌山チーム健闘 – バレーボール競技 – 紀の国わかやま大会 (第15回全国障害者スポーツ大会)

紀の国わかやま国体に続いて開催された紀の国わかやま大会 バレーボール競技(精神障害者の部)において和歌山県チームは横浜市に敗れはしたものの、大健闘しました。ちなみに横浜市は3年連続優勝の強豪チームです。その横浜市を相手に我が和歌山県チームは白熱した試合で、1・2セットで24ポイントを挙げたのです。また翌日の交流試合でも名古屋市を相手に27ポイントを挙げました。

感動を呼んだ選手宣誓

今回の大会の開始式では、和歌山県の主将の江川さんが選手宣誓を行いました。それを聞いた、運営スタッフとして協力していた和歌山県バレーボール協会のメンバーの高校教員の方が、その宣誓の言葉一つ一つに心打たれたとのことで、是非生徒たちに紹介したいと言ってくれたそうです。

私たちは心の病となりましたがバレーボール競技と出会い、仲間ができ、友人、家族、大勢のスタッフに支えられスポーツを続けることができました。

本日、紀の国わかやま大会が開催され、私たちにたずさわってくれる人に感謝し、一生懸命にプレーすることを誓います。

平成27年10月24日 和歌山県代表チーム 主将 江川俊和



和歌山メンタルヘルスニュース

【ひきこもり家族教室 第1回】 ひきこもりの理解と対応

日時: 27年12月17日(木) 13:30~15:30
講師: 精神保健福祉センター所長 小野 善郎



【ひきこもり家族教室 第2回】 ひきこもり支援

— 家族としてできること・支援者としてできること —

日時: 28年1月15日(金) 13:30~15:30
講師: 元当事者の親・一般社団法人アトリエみらい
理事長 東 邦治 氏

【ひきこもり家族教室 第3回】 ひきこもりを経験して

日時: 28年2月12日(金) 13:30~15:30
内容: 講演会 13:30~14:30
交流会 14:30~15:30

講師: ひきこもり当事者

ひきこもっていた当時の気持ちや回復のきっかけなどをお話していただきます。



場所: 海南市民会館 第2集会室
(海南市日方1271番地108)
家族教室の対象: ひきこもりの問題について関心のある方
(家族や本人、支援者など)

【自死遺族支援関連研修】

日時: 27年12月19日(土) 12:30~13:50

■講演会

わたしの話、聴いていただけますか？

— 生と死を見つめて —

講師: 特定医療法人旭会和歌浦病院医師・
和歌山県立こころの医療センター前副院長
生駒 芳久 氏

自身の障害と向き合い、また、生と死、また、生きるということを見つめてきたかについて、お話をしていただきます。



■琴線に触れる邦楽会
14:00~14:30
■交流会
14:40~16:30

場所: 和歌山ビッグ愛(和歌山市手平2-1-2)
講演会・音楽会…12階 1203号
交流会 ……2階 精神保健福祉センター
プレイルーム

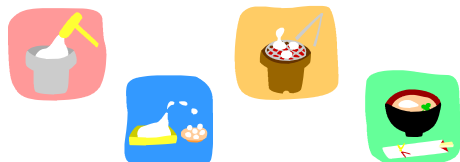
【精神保健福祉従事者研修会】

日時: 28年1月8日(金) 14:00~17:00

■ワークショップ

「ピアサポーターの可能性」

<内容>



前半…「ピアサポーターについてのお話」と「ピアサポーターの体験談」
後半…「ピアサポーターの可能性と課題についてのお話」と「グループワーク」

講師: 聖学院大学人間福祉学部 人間福祉科教授
相川 章子 氏

場所: 和歌山ビッグ愛2階 201会議室

【災害時等こころのケア研修会】 ■支援者のためのセルフケア

日時: 平成28年1月25日(月) 13:30~15:30
講師: 和歌山心療オフィス 臨床心理士
上野 和久氏

場所: 和歌山ビッグ愛2階 201会議室

対象: 保健・医療・福祉・教育従事者・被災者等支援
携わる職にある方、行政担当者等に

■災害時等の心理的応急処置
(サイコロジカル・ファースト・エイド: PFA)

日時: 28年2月22日(月) 13:30~16:30
講師: 国立精神・神経医療研究センター 精神保健
研究所 研究員 大沼 麻実 氏

場所: 和歌山ビッグ愛2階 201会議室
対象: 保健・医療・福祉・教育等従事者、被災者支
援に携わる職にある方、行政担当者等

※申込先・問合せ 和歌山県精神保健福祉センター
☎ 073-435-5194 FAX 073-435-5193

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、きぼうの木 西川 諭さんです。



はーとふるネットワーク



ー「きぼうの木」についてご紹介ください。

平成27年4月より特定非営利活動法人 きぼうの会として西牟婁郡上富田町地で障害者支援施設「就労継続B型事業所14名」「生活介護事業所6名」の20名定員で開所をいたしました。事業所名の「きぼうの木」は、近隣の支援学校の生徒の方々に公募をして私達で決めました。施設の特徴として、他の事業所と差別化をして地域で障害のある方が利用しやすいよう、「送迎時間をきめ細やかに対応して通所をやすく」「ご本人様の経済的負担を軽くするため、昼食代金は無料化」としています。

また、看護師を配置し、肢体不自由の方の入浴や活動を支援しております。

現在、生活介護を利用している方は全て区分6の方で、どんなに重い障害を抱えても地域で暮らして、活動していきたい。その「きぼう」を叶えていきたいと。その様な事業所です。

ー利用者の皆さんは施設でどのような活動をされているのですか？

- ①生活介護の活動は、朝の体操、朝の歌、創作活動、野菜の水まき、PETボトルのラベル剥がし、入浴、散歩など積極的に身体を動かす活動、作業に取り組んでいます。
- ②就労継続B型の活動は、商品券の箱折り、スポンジ内職、自動車洗車、廃品回収、小さな野菜畑、外出余暇活動も取り入れて、働く、生活をする、喜びを感じる、社会に貢献する活動に取り組んでいます。

ー支援をする上で、一番大切にされていることはどんなことですか？

沢山ありますが・・・利用者の方の話しを途中で切らない。最後まで聞く。彼ら自らが答えを出せるように心掛けています。決めるのは彼ら自身。

ー最近のトピックがあれば教えてください。

真面目に、誠実に、一生懸命取り組んでいけば、周囲は「きぼうの木」を認めてくれる。作業も増えてくる。嬉しい限りです。

ー今後の抱負を教えてください。

先ずは事業を安定させる為に、利用者の方に選ばれる施設になっていく事。20名の方々に通所をして頂けるよう邁進していきたい。地域には作業所に繋がらない(送迎が無い、昼食費が払えない)方が居ます。その方達に知って頂きたい。「きぼうの木」がある事を。

ー次の方のご紹介をお願いします。

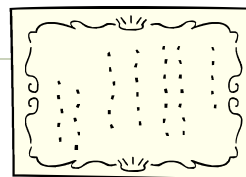
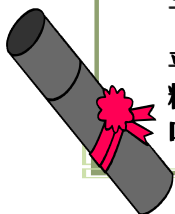
白浜コスモスの郷の山下善久さんを紹介します。障害福祉の仕事について15年ほどになるかと思えます。現在は白浜コスモスの郷で相談支援事業所の相談員として従事しています。私がこの仕事をずっと続けたいのは、彼が居るから。彼の支援がすきだから。彼と福祉を語るのが好きだからです。

おめでとうございます

ー厚生労働大臣表彰ー

生駒芳久先生 (医療法人旭会和歌浦病院)

平成27年度 精神保健福祉事業功労者に対する厚生労働大臣表彰について
精神保健福祉協会から推薦をしましたところ、受賞が決定し、10月30日
山梨県甲府市で開催された第63回精神保健福祉全国大会にて表彰を受けられました。



編集後記

先月号に学校に行くのがつらい子への図書館からのメッセージのことを書きました。その後、図書館の話題はカルチャ・コンビニエンス・クラブ (CCC) が運営する公共図書館の選書や本の分類などをめぐる問題が取り上げられるようになりました。そして住民投票の結果「ツタヤ図書館」の導入を中止したり、CCCが運営から撤退したりということがおこっています。しかし、おしゃれなカフェや開館時間の延長など民間が運営するメリットも大いにあります。自分たちの町の図書館をどのような場所にしたいかを考えるのは、やはり自治体の責任だと思います。そのひとつに学校に行けない子どもや、ひきこもりの人たちが、過ごしやすい場所のことも考えてもらえればいいと思います。

